

タイトル：2019年度 教育セミナー（第15回）

日時：2019年9月19日（木）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階大会議室（303）

「ウマイヤ朝最末期におけるウマイヤ朝軍の評価―「ムハンマド・ブン・ハーリド・アル＝カスリーの乱」を中心に」

北村隼一（九州大学大学院人文科学府）

中東☆イスラーム教育セミナーは、例年九州大学から修士課程一年の学生が参加させていただいており、私も先生や先輩方に勧められ参加、発表させていただきました。普段九州にいる私は学内以外でイスラーム関係の分野を専門とする学生と交流する機会はほとんどないため、今回のようなセミナーに参加できたことを非常に嬉しく思っております。以下、数点ではありますがこのセミナーを受講してよかったと思えたことを書きたいと思います。

まず一点目は、同世代の学生と交流ができたという点です。今回のセミナーには私が専攻している歴史学をはじめ、政治学や文学など参加している学生の専門分野は多岐にわたっていました。私が在籍する大学では、所属している研究室以外でイスラーム関係の分野を専攻している学生はほとんどおらず、今回のセミナーのように近い分野を専攻している同世代の学生と交流できる機会はなかなかありません。今回はそうした学生の皆さんと研究での悩みや留学の話など、いろいろな話題が共有でき何より楽しかったです。また、同世代の学生の研究内容などを聞くと、非常に刺激になりますし、いい意味で意識しあえて今後のモチベーションにも繋がりました。

二点目は、様々な講師の先生方のセミナーが聞けたという点です。セミナーの内容は歴史学以外に政治学や地域研究、文学など多岐にわたっていました。普段、歴史学以外に講義を受ける機会は少ないため、他分野の講義が一つ聞けるだけでも刺激的でしたが、連日のように興味深い講義が続き、とても充実したセミナーでした。特に歴史学を専攻していると、どうしても現代的な問題意識が抜け落ちてしまう部分があり、指導教員にもその点を指摘されることがあるのですが、今回のセミナーのような機会があると異なる分野の講義から新たな視座や研究手法を学ぶことができ、自分の今後の研究と照らし合わせながら受講することでどの講義も非常に有意義なものとなりました。

三点目は、受講生発表から得るものが非常に大きいということです。私は今回受講生発表をさせていただき、何よりも感じたのは誰にでも伝わる発表をすることの難しさです。今回のセミナーはイスラームと関連の薄い分野を専攻されている受講生の方もおり、そうした方々から出る質問は自分が全く予期していないものも多く、自分の研究発表の在り方について反省するとともにそれを見つめなおす非常に良い経験になりました。やはり、普段学内で自分の研究についてよく知っている人の前で発表することに慣れてしまっていると、外で発表したときに意外な盲点があるものです。また、先生方からいただく意見は自分の興味の根底を見透かされたようなものばかりで、研究内容についても見つめなおしたい部分がたくさん出てきました。今後参加をされる方はぜひ積極的に学生発表を行ってください。

まだ書き足りませんが、以上がこのセミナーから得たことといえるかと思います。このような素晴らしいセミナーに参加できたことを非常に嬉しく思います。最後に講師の先生方や、スタッフの皆様をはじめとして今回お世話になったすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。